

和光市図書館サービス計画

「みんなで育てる 身近な図書館」

～地域コミュニティを支える情報拠点を目指して～



平成25年3月
和光市図書館



和光市図書館サービス計画の策定にあたって

市民の皆様、図書館利用者の皆様には、日頃より「和光市図書館」の運営にご理解・ご協力をいただいておりますことに、心より厚く感謝申し上げます。

さて、図書館は「知の宝庫」と言われていますように、利用者が図書館で本を「借り・読み・調べる」ことを通して、先人の知恵や業績に触れたり、知識を吸収して、自らの知性や人間性を高めることができる社会教育施設として重要な役割を担っています。

一方、情報を求める利用者の多くは、知識や経験に基づく様々な情報を持っており、これらの情報や図書館に集まる情報を、様々な機関や団体と有機的に結び付けることによって、まさに「知の宝庫」である図書館を核としたまちづくりが展開できるものと考えます。そのためには、地域を支える情報拠点である図書館が、利用者の「学びたい意欲」に対し、知の創出を図る場となるような役割と機能を十分に発揮していくことが求められます。

本市図書館は、昭和58年8月に開館して以来、本年には設立30周年という記念すべき年を迎えます。この間、市民の皆様の日常生活の課題を解決する支援や読書活動の支援を積極的に推進してまいりました。平成20年3月には「子ども読書活動推進計画」を策定し、市内小中学校、保育園、幼稚園等への図書の貸出（団体貸出）やボランティアによる読み聞かせなどに取組んできました。これらの取組みは「埼玉・教育ふれあい賞」（平成21年11月）、「文部科学大臣表彰子ども読書活動優秀実践図書館」（平成24年4月）の受賞という成果に結びついたものと思います。

本市では、平成22年度に図書館における民間委託等の検討が行われた際に、「図書館のあるべき姿として、市民の生涯学習を支援する社会教育施設であることから、運営形態としては現行の直営の形を継続させながら、コスト削減とサービスの向上に主眼を置いた運営改善を図り、現行施設の中での蔵書や読書スペース確保、窓口業務の効率化を含めた委託の見直し、ICタグの導入による自動貸出機の導入等の検討により、市民に親しまれ満足度の高い図書館として、市民が期待する図書館サービスの提供に努めていくこととした。」と報告をまとめました。

このような検討結果や状況を踏まえ、図書館の今後のあるべき姿、図書館サービスのあり方等について検討を重ね、図書館の将来像を【みんなで育てる 身近な図書館 ～地域コミュニティを支える情報拠点を目指して～】と掲げ、本計画を策定しました。

本計画の将来像の実現に向けては、図書館のみならず、市民、地域活動団体、ボランティアなどすべての方々のご支援ご協力が必要であります。30周年の区切りを迎えた和光市図書館が、次の40・50年に向けてどのような歩みを重ねていけばよいのかについて、市民の皆様並びに図書館関係者の皆様とともに知恵を出し合いまして、利用者の皆様に愛される図書館づくりを目指してまいります。

終わりに、本計画策定にあたり貴重なご意見ご提案をいただきました図書館協議会委員の皆様をはじめ、アンケート調査等にご協力いただきました市民の方々に深く感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願いを申し上げます、挨拶とさせていただきます。

平成25年3月

和光市教育委員会教育長 大久保 昭男

も く じ

第1章 計画の概要	1
1 計画策定の背景と目的	1
2 計画の位置付けと期間	2
3 計画の実現に向けて（P D C Aサイクルによる計画の推進）	2
第2章 図書館の現状	3
1 図書館の概要	4
2 アンケート調査等の結果	14
3 各種統計資料及びアンケート調査等から読み取れる特徴と課題	26
第3章 基本計画	27
1 将来像	28
2 基本施策	29
3 重点プラン	33
4 施策の体系	35
第4章 各種施策	37
基本施策 市の特性に合った計画的な蔵書管理	38
基本施策 快適な図書館サービスの提供	44
基本施策 誰もが便利と感じる図書館機能の充実	56
資料編	69
1 計画策定の経緯	70
2 図書館協議会委員名簿	70
3 図書館利用者アンケート調査票	71

第1章 計画の概要

